

ちばけん公民館 スタッフニュース



わがまちじまん!! 恋実る富士見の岬 洲崎灯台

館山市は千葉県房総半島南部に位置し、年間平均気温が16℃を超える温暖な気候により、1月にはポピーやストック、菜の花が咲き誇る「花のまち」です。

また、34.3kmの海岸線を持ち、ウミホタルやサンゴの生息北限域として知られているほか、スキューバダイビングや海水浴にも多くの観光客が訪れる、多様性に満ちた貴重な海洋資源を有する「海のまち」でもあります。

館山市最西端に位置する洲崎灯台は、大正8年に点灯を開始してから東京湾の入口を守る灯台として、海を航行する船舶の安全を支えています。鏡ヶ浦を一望できる展望デッキからは、晴れた日には富士山や伊豆七島を見ることが出来ます。洲崎灯台周辺では昭和初期にマーガレットの作付けがはじめられ、昭和30年代にこの地を訪れた秩父宮妃殿下が咲き誇るマーガレットに囲まれた灯台を見て「マーガレット岬」とお付けになったと言われています。また、平成27年には、城山公園と館山夕日栈橋と共に「鏡ヶ浦から富士の見えるまち 館山」として千葉県では5番目となる恋人の聖地として認定されました。現在では、マーガレットの花言葉「真実の愛」にあやかれるよう、灯台付近の店舗で「絵馬」が販売され、願いを込めたカップルが展望デッキに掛けています。

第68回千葉県公民館研究大会

**テーマ：誰もが活躍できる地域社会の実現に向けた
公民館の役割を考える。**

会場：栄町 ふれあいプラザさかえ



平成28年11月25日、栄町ふれあいプラザさかえにて、第68回千葉県公民館研究大会が盛大に開催されました。

会場前では印旛地区のゆるキャラが揃って来場者をお出迎えしました。

記念講演では、元オリンピックバレーボール選手であり、2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会理事であるヨーコ・ゼッターランド氏より「My Townを元気に～枠を超えたアイデアを！～」をテーマに、地域との関わり等についてスポーツの視点から講演を頂きました。

事例発表では、第68回優良公民館優秀賞文部科学大臣表彰を受けました佐倉市中央公民館より、「地方都市公民館の1活動 ひとづくりからまちづくり」として、市民カレッジの活動を中心にご紹介頂きました。

第1分科会は、「公民館運営のあり方」が研究テーマでした。発表1は、＜学びの循環を目指して＞を題材に、松戸市は「まつど生涯学習大学講座」などを開催して、受講生が学んだ事柄を還元するサイクルが活性化になることを発表しました。発表2は＜大多喜町の歴史を生かした公民館活動＞を題材として大多喜町の歴史や文化を学ぶ取り組みなど、活動を発表しました。

第2分科会のテーマは「若い世代の参加を中心と

した地域づくり～公民館の可能性を探る～」公民館事業について、若い世代にも公民館に足を運んでほしい、また、公民館事業を引き継いでつなげていきたい、そのためにどのように活動を展開していけば若い世代にも参加協力を促せるか、若者も一緒に活動しやすい地域づくりができるかについて事例発表を通じて学びました。3つの事例とも、若い世代をうまく取り込み、地域と未着してたくさんの住民の声を聴き、連携をしながら未来に繋がる事業展開をされており、公民館と若い世代が一緒になって地域を盛り上げていく力を感じました。

第3分科会では、学びを活かす公民館事業として、地域づくりや実践事例をもとに課題や問題点について、活発なワークショップが行われました。職員の資質向上や特色を生かした講座、超少子高齢化や価値観の多様化などから、住民が求めている公民館講座の変更など、地域のビジョンを生かした講座、「住民参加・住民主体」の講座などの講座づくりのシフトや支援の重要性が話し合われました。

第4分科会では、「職員の専門性をどのように生かしていくか」をテーマに、3名の発表者から専門性の重要性、またそれをどう活かしていくかについて講義を受けました。立場の異なる3名の視点から、それぞれの地域の特色や、それをもとにした公民館、文化センターの地域との関わり方を聴き、いずれの視点においても、地域のコミュニティに積極的に関わりに行くこと、その中で、自分も学んでいくことで、地域の特徴に合った専門性を活かしていくことの重要性について学びました。

第5分科会は「房総のむら見学」。30年前に佐倉や佐原家をモデルに再現された商家の街並み、武家屋敷、上総の農家等を3班に分かれて見学をしました。ボランティアガイドさんからは、今では見ることの出来ない貴重なものを酒屋、薬屋、呉服屋等店ごとに丁寧に説明をしていただきました。

最後になりましたが、運営にあたられました印旛地区公連の皆様、大変お疲れさまでした。

日頃の地域学習活動への貢献が評価されました。

佐倉市立中央公民館が 文部科学大臣表彰「優良公民館」を受賞

平成27年度、佐倉市立中央公民館が、全国約1万4千の公民館から、「優良公民館」77館の1館として文部科学大臣から表彰され、さらに優良公民館の中から特に優れた活動を行った「優秀館」5館にも選ばれました。前号における「佐倉市民カレッジ」に続いて、佐倉市立中央公民館の団体育成と地域活動について、その一端をご紹介します。佐倉市民カレッジの卒業生は既に1,900名を超え、その多くがボランティアを含めた地域活動に参加し、今回ご紹介する事業にも多くの参加をみえています。

■利用グループ懇談会

佐倉市立中央公民館では、毎年4月に200を超える登録団体の代表者を集めて、「利用グループ懇談会」を実施しています。この懇談会では、利用団体の活動が私塾化したものにならないため、あるいは著作権法等の違反行為を行わないなど、社会教育施設である公民館の利用に関する説明・確認を行う場となっているだけでなく、趣味のグループが日頃の活動成果を地域活動に活かすよう、積極的な働きかけを行っています。

■子どもの居場所づくり事業

「夏休みなんでもチャレンジ」

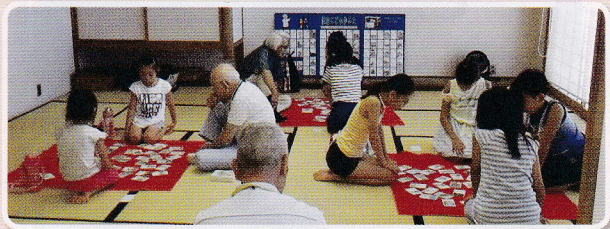
子どもたちの社会性とコミュニケーション能力を育むため、地域の様々な人たちとの関わりが大切と言われています。しかし少子化の進む現状では、安全で楽しく遊ぶ場や機会が失われつつあり、子ども自身の「居場所」を地域に作る事が難しくなっています。そこで、佐倉市立中央公民館では、夏休みの子どもたちの居場所を公民館が提供し、公民館を拠点に活動するグループが、地域の子どもたちを指導することにより、地域内交流・世代間交流を促すとともに、ボランティアとして講師を担当するグループが日頃の学習の成果を発揮し、学習を深めることを狙い、子どもの居場所づくり事業「夏休みなんでもチャレンジ」を実施しています。この事業の講師は、先述の利用グループ懇談会の場で、公民館利用グループに無償ボランティアとしての協力を働きかけています。その結果、平成28年度は15グルー

プの協力で、全24回の事業を行いました。そのうち、『「佐倉こどもかるた」で佐倉を知ろう!』に協力いただいた「佐倉こどもかるた子都手留会」は、前号で紹介した佐倉市民カレッジから生まれたボランティアグループで、自ら手作りした佐倉を紹介するかるたを使って市内の小学校などでボランティア活動を行っています。今年度の子どもの居場所づくりでも、2回のかるた大会を実施しました。「水ロケットを作って飛ばそう」に協力いただいた「お〜い遊ぼう会」も、やはり佐倉市民カレッジから生まれたグループです。



「水ロケットを作って飛ばそう」の様子

佐倉市民カレッジから生まれたグループをふくめ、全ての事業がボランティア講師ながら、子どもの目線にあった熱心な指導で、参加児童が楽しんでいる様子が伺えただけでなく、地域内の世代間の良い触れ合いの場となっています。また、協力いただいたグループによっては、早くから念入りに準備をし、当日の受付等の運営面にも自ら進んで携わるなど、公民館利用グループ活動の活性化の面でも一定の成果があがっています。その他、子どもたちと交流することで新鮮な気持ちで活動することができ、貴重な体験となったという声も聞かれます。世代間交流の場として、地域に開かれた公民館の子どもの居場所として、長く続けていきたい事業のひとつとなっています。



「『佐倉こどもかるた』で佐倉を知ろう!」の様子

まちより むらより、

おじたちが柏を元気に!

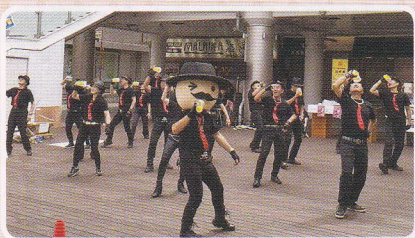
柏市中央公民館 ☎04-7164-1811

今回紹介するのは柏市中央公民館の登録団体の一つ「柏おじダンサーズ」です。新聞やテレビでも取り上げられ、柏市のまちで活躍する「おじ世代」のグループです。

結成したきっかけとなったのは、2010年、おじ世代が地域づくりに参画することを目的に生涯学習の講座を開いたことでした。

その中で素人のおじたちが地域の祭りに出て踊ったことで「柏おじダンサーズ」が誕生し、中央公民館を練習場所として活動を続けています。

地元の祭りや行事への参加。障害者施設や高齢者施設への訪問。声が掛かれば時間を惜しまずどこにでも出向いているそうです。その活動が話題になり、新聞やテレビにも取り上げられるようになり、気が



つけば、結成6年目にして260回近い公演を行い、メンバーも50名近くに増えました。

最近では、お

じたちを元気づけようと、おじたちが所属する団体に声をかけ、8月11日を「おじの日」と勝手に名づけて、JR柏駅前で記念イベントを行いました。また「おじの居場所づくり」と題し、地域の飲食店と協力しながらイベントも実施しました。今年は、おじを元気にする講座の企画も行ったそうで、「疲れはしたが、終わった後のビールの味は格別だった」とか。

「おじダンサーズ」は、おじたちがやってみようと思うことを、後先考えずに、楽しんでやってきました。すると地域社会から、おじ世代が地域活動へ参加することで、まちを元気にしていく、という期待感が生まれてきたといいます。

おじたちも、いつまでも受身ではなく、自ら活動を創っていかうと、NPO法人化を決定。「柏と言えどおじ」、「おじがまちを元気にしている。」と言われるように、おじたちは見えない明日に向かってさらに動き出す!と、意気込みを見せてくれたのは、今年度から柏市中央公民館に勤務している生涯学習専門アドバイザーのひとりです。みなさんの地域でも「おじダンサーズ」が現る?!

家庭教育学級「教育座談会」「親子で歴史散歩」

千葉市花園公民館 ☎043-273-8842

花園中学校区には、2つの公民館があります。検見川公民館は検見川小、花園公民館は畑小、瑞穂小、花園小を担当しています。いずれ同窓となる4小学校と花園中を対象に、検見川公民館と花園公民館が共同で家庭教育学級の講座を企画しました。

まず7月に、5校の保護者等を対象とした「教育座談会」を実施しました。コーディネーターを瑞穂小の校長先生にお願いし、5校の教務主任さん等がパネラーとなり、夏休みを前にした児童の生活に関する現状や課題を提案していただき、それに対して参加者の方々がディスカッションするという内容です。特に活発に意見が交わされたのが、SNSをめぐるトラブルについてでした。児童の携帯電話保有率は学校によって温度差もありますが、保護者の方たちの心配は増すばかりで、これからの重要な課題となることでしょう。

また、11月中旬には、4小学校の親子を対象とした「親子で歴史散歩」を実施しました、自分たちが住んで

いる地元を歩きながら親子で学ぼうという企画です。地元の京成検見川駅周辺の神社や寺院を歩き、子どもたちは歴史ガイドの方の説明に熱心に耳を傾けていました。保護者の方からは、「大人向けのバージョンも実施してほしい」との要望もあったほど好評でした。

これからも、若い世代にどんどん参加していただけるような楽しい企画を考えていこうと思います。



持ちより公民館だより

「人にやさしくなれる人間作りを目指して」コジュリン通学合宿

東庄町公民館 ☎0478-86-1221

東庄町公民館では、平成20年度から2泊3日の通学合宿を実施しています。学年の違う子どもたちが共同で生活体験をすることで、相手を思いやり、協力する心を育てるという目的があります。子どもたちに考えさせ、実行させ、結果を振り返らせることで、当たり前になっている毎日を見つめ直し、家族や友達の有難さを実感できるような合宿を目指しました。

コジュリン通学合宿は、「物を大事にしましょう」、「当たり前前の生活に感謝しましょう」を合言葉に、地域を超えて新しい友達を作る良い機会と捉えています。

早速1日目は、3日分の食材を準備するため、町内のスーパーに買い出しに行くことから始まり、お風呂は町内のゴルフ倶楽部でもらうため、町民バスで移動しました。

バスでの送迎時に、運転手さんが休日を返上して通学合宿のために出勤してくれたことを話すと、子どもたちは乗車時には「お願いします」、降車時には「ありがとうございました」と、当然のように感謝の気持ちを伝えていました。運転手さんに対する気遣いを子どもたちに知ってもらうことができました。

もらい湯に続いては、夕食の準備ですが、子どもたちは手際良く大人顔負けのメニューを作り、翌朝の食事まで準備している姿には驚きました。

朝は、各学校へ公民館から通学し、午後には帰館し、もらい湯、夕食そして夕食後は「杉の子サークル」のお兄

さんやお姉さんが1時間程度、レクリエーション指導してくれました。

杉の子サークルは、「子どもたちによる町づくり」を合言葉に、公民館行事に積極的に協力してくれています。おかげで、笑顔や笑い声があふれる楽しい時間を過ごすことができました。

最終日も誰一人として病気やケガも無く、友と過ごした2泊3日の通学合宿を惜しみながら各家庭に帰って行きました。

この合宿から学ぶこと、感じたことは個人個人違いますが、3日間を振り返らせ、学校生活などに活かすように努めています。

こうした様々な体験活動の機会を計画的に提供することは重要です。今後も「通学合宿」などを通して、思いやりの心を忘れずに育ててくれることを願い、「人にやさしくなれる人間作り」を目指した活動を実施していきます。



「東京オリンピックホストタウンおもてなし準備～多文化交流事業～」

山武市成東中央公民館 ☎0475-82-3641

山武市は、2020年東京五輪・パラリンピック「ホストタウン」構想第1次登録候補のうち、千葉県で唯一スリランカのホストタウンとして登録されました。山武市では来る東京オリンピック・パラリンピックに向けて様々な取り組みを展開しています。

成東中央公民館では、「国際感覚を身に着けた人材



の育成」に取り組むため、城西国際大学協力のもと、留学生と山武市民による「多文化交流事業」を本年度から開催し

ています。

山武市民から15名、留学生を15名公募し、全7回の講座を用意しました。

「日本を知ろう」「自国を紹介しよう」「七夕」「さんぶ杉を使ったMy箸作り」「和食を知ろう(太巻き寿司作り)」「城西国際大学文化祭展示発表」「城西国際大学キャンパス見学」の7講座です。

日本文化の体験は留学生の皆さんに大変好評で、市民参加者・ボランティアスタッフと楽しく取り組みながら、交流を深めています。

市民参加者からも、普段接することのない様々な国の出身者と片言ながら直に会話することができ、大変勉強になると好評をいただいています。

海外からのお客様が山武市に滞在して喜んでいただけるよう、これからも取り組んでいきます。

まちより むらより、

「放課後子ども教室」

御宿町公民館 ☎0470-68-2947

御宿町公民館からご紹介する主催事業は「放課後子ども教室」です。この事業は、心豊かでたくましい子どもを育むため「遊びと学習教室」や「ネイチャーゲーム教室」など、地域の大人を指導員に招いて様々な体験活動を行います。

対象は町内の小学校1年生から3年生までで、人数は20人程度募集をし、毎週金曜日の15時30分～17時まで実施しています。

放課後子ども教室は様々な内容で実施され、「遊びと学習」の教室は故郷の民話を中心に学習し、自分たちの祖先が生活してきた暮らしを結びつけながら生み出してきた民話を知ることにより、ふるさとの文化を学ぶことが出来ます。

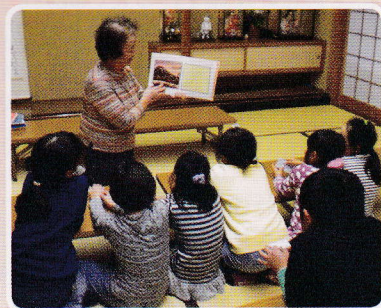
「ネイチャーゲーム教室」は、公民館周辺の草むらを探検しながら自分の五感を通して、心と身体草花や虫たちの生命力を感じ、自然の中で遊びながら学び、喜びを知る教室になります。

他にも「子ども料理教室」や「読み聞かせ教室」など

があり、子どもたちに好評な教室です。今回は読み聞かせ教室をご紹介します。

長年、御宿町公民館の自主グループに所属している「読み聞かせグループ御宿」の皆さんよりご協力いただき読み聞かせを行っています。子どもの感性を豊かにし、想像力を高め読解力を育てることを目的にしております子ども達も楽しみにしている教室の一つです。

放課後子ども教室は、これからも子どもたちにふるさとの文化教育や体験活動を中心とした内容で行い地域住民の協力を得ながら子ども達の放課後の時間がよりよい教室となるよう努めていきます。



森と海での冒険スクール

岩根西公民館 ☎0438-41-1023
 金田公民館 ☎0438-41-0002
 波岡公民館 ☎0438-37-8515

岩根西公民館から始まったこのスクールは、地域を超えた交流体験を行うことで、子どもの冒険心から人との関わり方、絆づくりを学ぶのに最適な環境になると考え、地域のボランティアなどの協力を得て、金田公民館、波岡公民館とともに合同で学校にはない体験活動を実施することになりました。

小学生を対象に木更津市から離れた富津市宝代自然塾を会場に、集合場所の上総湊駅まで小学生自身が切符を購入して電車に乗ってきます。海水浴、山登りなどの他に、フリータイムでは学区外の小学生とも関わるため自分たちで遊びのルールを決めて主体的に活動しています。そこでは原則大人は黙って見守りに徹しま



学区外異学年の小学生が集まってルール決め

すが、ときには喧嘩やふざけて危険な行動をする小学生もいます。様々な問題が生じる中で、小学生自身が問題を解決する方法を見つけるようにしています。大人の介入が必要な状況では、高校生・大学生中心のアフター、ユーススクールボランティアが小学生の気持ちを上手くコントロールしながら問題を解決させています。保護者には、「ケガと弁当は自分持ち」と伝え理解を求めています。

近年は低迷気味である子供会などの体験活動を、公民館が繋いでいこうと考えましたが、安心安全を提供しすぎて、マズローが提唱する人として成長する過程に必要な「安全の欲求」が薄れがち。この活動は、今の年齢に経験しなければならない体験をさせることが重要であると考えて行っています。

小学生自身が体験しながら問題を解決させ、自立を目指すこれらの活動ができるのも、家庭、地域、教育委員会等の理解と、強い思いを持つボランティアの協力があるからこそ。これからも青少年健全育成のあり方を考え、関わる全ての方々と問題を共有しつつ理解を深め、協力して継続できればと思います。

持ちより公民館だより

人と人とのつながりを…『パッチワークの布小物教室』

茂原市鶴枝公民館 ☎0475-25-1834

鶴枝公民館は、茂原市の南方の鶴枝地区にあり、昭和57年開設です。夏にはヒメハルゼミの鳴き声が聞こえる、緑に囲まれた公民館です。

「わー、〇〇さん久しぶり〜」そんな声から、毎回パッチワークの布小物教室はスタートします。この教室は、2年目ですが、女性を対象とした公民館主催教室です。パッチワークというと黙々とやるイメージがありますが、この教室では、近くの席の人と「〇〇さん、ここどうやってやるの?」とコミュニケーションを図りながら、参加者の笑顔が飛び交う教室です。もの作りを学習して、参加者の創造意欲が向上するのはもちろんのこと、公民館の基本である、人と人との交流の場所という役割を果たしています。この教室は、月1回開催され、参加者は、学習を目的に来るのですが、久しぶりに同じ教室のメンバーに会えてうれしそうに自然と笑顔になります。年間を通じて、ポーチ、アクセサリー、コースター、バッグ、タペストリーなどの作品を仕上げます。



教室が始まる前には、職員も参加者のみなさんの笑顔を手待ちにして、準備にとりかかります。

これからも生涯学習を通じて、市民に少しでも役に立てるよう、主催教室を開いていきたいところです。

「歴史を後世に伝えていくために〜文化財関係事業〜」

一宮町中央公民館 ☎0475-42-4576

一宮町中央公民館から皆様に紹介する公民館主催事業は、「文化財講座」「文化財資料展示」です。一宮町には資料館がないため、公民館が文化財の普及活動の拠点となっています。地域の歴史を学び、郷土愛を育むことを目的に事業を行なっています。



文化財資料展示の様子

「上総国一之宮」の格式をもつ玉前神社の所在する一宮町。多くの文化財がありますが、町民の方々が歴史に触れる機会がなかなかありません。

公民館では年に2回、外部の講師を招いて文化財講座を開催しています。毎回30名ほどの参加者が講師の方の話に熱心に耳を傾けています。また今年度からは当町学芸員による初心者向けの講座も開催する予定であり、来年初めには町内の文化財巡りツアーも企画しております。

また、昨年度より公民館内にある図書室で資料の展示も開始しました。狭いスペースですが、貴重な歴史資料をじかに見る機会を作り、文化財の普及活動に努めています。

今後も事業の拡大を図り、「若い世代への歴史の継承」という面だけではなく、「生涯学習」という視点からも様々な企画を開催していきたいと考えています。ここで学んだことを個人がさらに意欲をもって学んでいく、そのきっかけとなるような事業にしていきたいと思えます。

シリーズ・県内の

元気館

～地域の生涯学習の核として～

船橋市習志野台公民館

☎047-463-2231

習志野台公民館は船橋市の東部地域、新京成電鉄・習志野駅から徒歩約12分の位置にあります。

船橋市東図書館と併設された、この地域の生涯学習の核としての期待を込めて昭和56年に生まれた施設です。

今年で35年目を迎えますが、昨年の10月から6か月をかけ施設の空調・照明設備の交換と屋上・外壁補修等の大型修繕工事を行いました、その間は公民館の貸し出し及び施設を使った自主事業を休止しました。

そのため27年度では、毎年10月に開催している文化祭をどうするか、開催の可否も含めて職員の間でもサークルの皆さんとも何度も話し合いました。

準備期間不足や他の行事との調整が出来ないなどの理由で不参加となった団体もありましたが、時期を6月に早めて開催しました。

梅雨の時期にもあたり2日とも雨に降られてしまいましたが、参加団体や来館者のアンケートには、「コンパクトだったが良い文化祭だった。」「正直参加を迷ったが、参加してよかった。」などの意見を多くいただき、この文化祭が当公民館だけではなく地域に根差した行事になっていること、そして継続していくことの大切さを感じました。



平成28年10月現在の社会教育関係団体登録数は81団体。工事での長期間貸し出し休止により、多くの団体はその活動を終え、あるいは他施設に移ってしまうのではないかと懸念していましたが、今年4月のオープンには、ほとんどの利用者がまた元気な顔を見せてくれたことが本当にうれしく思いました。

そうした団体の方々と新装になってから初めてとなる今年度の文化祭は事故もなく無事に終了することが出来ました。昨年は参加を見合わせた団体もほとんど戻ってきてくれて、今年は好天にも恵まれ、以前にもまして多くの来場者が集まり、発表・展示・模擬店など各会場で参加団体の皆さんが、楽しそうに日頃の練習や研究の成果を、作品にあるいは自らがその声や全身で表現していました。

その他の各種講座や集会活動も、今年度は例年と同じく館の施設を中心に展開しています。春には新しくなった公民館を多くの地域の皆様に見ていただくよう「篠笛コンサート」を開催。

また、オリンピックイヤーとして、開催国ブラジルの言語や食文化を紹介した「国際理解講座」では、市民レベルの交流を行いました。高齢者が抱える様々な問題を解決するために通年で開催している「寿大学」にも毎回100人前後の参加者が熱心に学習しています。



寿大学の様子

これからも町会や自治会その他地域の諸団体と協力・協働を進め、より利用者の皆様に愛される、使いやすい公民館を目指して職員一同一層努力してまいります。

ちばけん公民館
スタッフニュース編集：千葉県公民館連絡協議会 広報委員会
委員長：高森 信夫(茂原市中央公民館)発行：千葉県公民館連絡協議会
印刷：エリート情報社